

物事を始めるチャンスを、
私は逃がさない。



神奈川県立

平塚看護大学校

Kanagawa Prefectural Hiratsuka College of Nursing

看護の本質を極める。
その学びがあなたを待っています。

ごあいさつ

本校は、2017年4月に“平塚看護大学校”に校名を変え、全国でも数少ない4年制の看護師基礎教育をスタートして10年目に入りました。

社会は少子超高齢化が急速に進展し、医療の場も病院完結型から地域完結型へと転換が進んでいます。看護師が活躍する場も、病院や診療所などの医療機関のほかに、訪問看護ステーションや介護・福祉関連施設などに広がっています。看護師には、人々の生命と生活を支える専門職として、あらゆる場での質の高い看護を提供することが求められています。

本校は、“時代の変化に柔軟に対応し自律した看護職として働くことのできる人材”の育成を目指して教育環境を整えています。充実したカリキュラムは、充実した外部講師の授業や、全カリキュラムの36%を占める臨地実習の実現に向けた各施設の理解あるサポートに支えられています。学内では、より臨床に近い環境でシミュレーション教育を行い、豊かな知識と技術を身につけ、看護を実践する力を養っています。そして、看護実践能力を培った経験豊富な専任教員が、学生の成長を大切にしながら丁寧にかかわっています。これらの教育活動は、学生一人ひとりが豊かな人間性を養い、社会の期待に応え活躍できる専門職業人として成長していくことにつながっていると確信しています。

看護師を志す皆さんが、4年度を通して看護の喜びや看護のやりがいを体感し、自分自身の気づきを大切にしながら看護の本質を極めていくことを期待しています。



神奈川県立
平塚看護大学校
校長

佐藤 裕季子

Principal, Yukiko Sato



本校の教育理念

神奈川県立平塚看護大学校は、ナイチンゲール看護思想を基盤とし、相手の立場にたちあたることのできるこもった看護を大切にする教育を実践します。経験をおし、ありのままの自分を受け入れ、豊かな人間性を養い、人々との相互関係の中で成長しあって、質の高い看護が実践できる看護師を育成します。さらに、保健・医療・福祉における幅広い視点から社会における看護の役割を考え、時代のニーズに即した看護実践能力が身につく教育を目指します。

教育目標

1. 人と関わる経験をおし、自己理解・他者理解をしていくことで、深く人間を理解し、豊かな人間関係能力を身につけることができる。
2. 生命の尊厳と倫理観に基づく人間愛を基盤として、こころのふれあう看護実践能力を身につけることができる。
3. 対象の生活の自立と生活の質の向上が図れるように、生活を支える看護実践能力を身につけることができる。
4. 保健・医療・福祉における看護の役割を理解し、多職種と連携・協働し、地域・在宅においても看護実践を推進できる能力を身につけることができる。
5. 専門職業人としての倫理観をもち、自ら学び行動することで、広い視野を持ち、看護であることないことを究めし続ける能力を身につけることができる。



看護師になることがゴールじゃない。
看護師として働く人になる！

教育の3本柱

教育理念に基づき、1. ナイチンゲール看護思想、2. 確かな人間関係能力、3. 時代のニーズに即した看護実践能力を教育の特色とし、4 年をかけて「看護師になる」教育から「看護師として働く人」を育てる教育に転換します。



ナイチンゲール
看護思想

時代のニーズに
即した
看護実践能力

確かな
人間関係能力

目指す学びの姿

学生が成長する学びの姿を、成長を支える栄養豊かな土壌、その土壌から水と栄養をたっぷりと蓄え、しっかりと根をはり大膽のなでしこの花を咲かせる「なでしこの花の姿」で表現しました。

在校生の声

夢を目指し仲間と共に学び合う！



2年次 山田 空良

入学当初は、変わったばかりの環境に戸惑いながらも新しい知識を身に付けるために、日々努力を重ねました。特に苦戦したのは、ペットメイキングの技術試験でした。何度やってもうまくいかず、親身に教えて下さる先生方や友達の協力を得ながら、何とか乗り切りました。この経験を活かし、2年次になった今でも、実習や試験を乗り越えていくために努力を重ね理想の看護師像に向け、先生方や仲間と学びを進めています。



3年次 グエン リンティ

入学当初は、慣れない通学や学習に疲れてしまい、家に居ると寝てしまうことが多くありました。課題やテスト、実習が重なる時期は特に大変で、思うようにいかず悩むこともありましたが、一つひとつ乗り越える中で大きな達成感を感じられるようになりました。その経験から「看護師になるためにもっと頑張ろう」と前向きな気持ちが強くなりました。グループワークや実習ではさまざまな仲間と関わる機会が多く、自然と仲も深まります。大変さの中にやりがいや成長を実感できる学校生活を送っています。



4年次 松浦 怜愛

入学当初は、すべてが初めてで不安や戸惑いが大きく、本当にやっつけけるのか心配になることもありました。しかし、先生方の手厚いサポートや、同じ思いを分かち合いながら進ませる仲間存在に支えられ、少しずつ前向きに学びへ向き合えるようになりました。実習では、最初は自分の弱わりが相手に届いているのか不安になる場面もありましたが、表情の変化が見られなかった患者さんが後日笑顔で「ありがとう」と声をかけてくださり、乗り越えたことが確かな力になっていると感じました。この環境だからこそ、日々挑戦しながら成長を続けられていると感じています。

私が推薦します！



ナイチンゲール看護研究所
所長
徳島文理大学大学院
教授

金井 一薫
Ph.D. Hitoe Kanai

約150年前(1860年)、フロレンス・ナイチンゲールは、看護職の社会における自立とそれまでに人々が味わったことのない第一級の看護を提供することを目標として、ロンドンの地に世界初の看護学校を設立しました。

平塚看護大学は、伝統ある専門学域としてこの理念を継承し、真に実力を備えた看護師を、4年制の教育課程を踏まえて育成します。看護大学教育では実現しにくい教員一丸となつての取り組みによって、本校は4年制教育のモデルとして、これからの日本には欠かせない人材を輩出していくことでしょう。心からのエールを送ります。

『看護の本質を極める』を叶える。



看護であること、看護でないことを考え続ける

時代の変化に対応するためには、一方で時代が変わっても、国や場所が変わっても、そこに人の生活がある限り決して変わらない「看護の本質～何が看護で何が看護でないのか」を世解している必要があります。本校は、日本が遭遇している少子高齢社会の激変の中で、この看護の本質を学ぶことが、看護の発展に繋がると考えました。フローレンス・ナイチンゲールは、その名言である「看護覚え書」の中で、看護には医学とは異なる独自の動きがあると看護の専門性を示しています。「看護であるものと看護でないものを見分ける眼」を養い、今後さらに看護職の役割が期待される中で、ナイチンゲール看護理想に示される専門職業人としての人間観を養い、看護実践の基盤力がしっかりと身につき自律型看護教育を目指します。



各科目

看護の原理を学ぶ



論理学
ナラティブ

論理的思考力を培う
内省から自ら気づく



看護研究

看護であること、
看護でないことを考え続ける

現在・過去・未来、人生を知り、看護する

本校では、「疾病を見るのではなく人を見る」「生活を営むことが看護」であると考えています。「人を見る、生活を見る」ということが最大のキーワードです。看護の対象である人を、現在・過去・未来という人生を生き、日々生活し、暮らしを営む人として、とらえることを大切にします。このため、対象となる人を出生から死に至る一生のサイクルの中で、領域横断的に学習が深まるよう発達看護論、健康段階別看護論を構成しています。

母性看護学

小児看護学

成人看護学

老年看護学

発達看護論・成長発達する人

健康段階別看護論・急性期、回復期、慢性期、終末期

人を見る

生活・暮らしを知る

人生を知る



時代の変化に対応する人材育成に価値を置く

いま、そして、これからの看護には、「多様で複合的な対象の状況を臨床判断し、相手の価値観を踏まえて必要な看護を考え実践する力」が求められています。ひとの生活を整える看護実践能力を養い、病院のみならず地域・在宅も視野に入れた教育を担います。標準的な教育内容にとらわれない教育課程とし、学内にスキルラボを整備し、より臨床に近い状況でのシミュレーション教育を繰り返し行い、着実に科学的根拠となる知識・技術が身につき学習を積み重ねます。これらの学びと経験が、看護師として働く人として、看護していける価値を見出します。

1年次

タスクトレーニングにより確実な技術を身につける

2年次

シチュエーション・ベースド・トレーニングを繰り返し
基本的な判断力・看護実践力を身につける

3年次

シチュエーション・ベースド・トレーニングを繰り返し
臨床判断力・看護実践力に磨きをかける

4年次

失敗してもいい、繰り返し
チャレンジすればいい!!



充実したシミュレーション環境



臨地実習とナラティブを連携させ 「考える」「内省する」「気づく」経験をする

ナラティブは学生が臨地実習での自らの経験をストーリーとして語ることを意味します。臨地実習で経験したことをとおして、学生が「内省」し「自分の気づき」にする教育が重要であると考えています。学生自身が経験したことを自分の物語<ストーリー>として「語る」「聴く」「書く（活写）」を行うことで、論理的思考で客観的かつ冷静に振り返り、次に繋げるために自分自身を言い直し続けることを、臨地実習科目ごとに4年間丁寧に行います。



臨床の知を概念化する、そのための基礎力を育みます。
語る・聴く・伝える力が身につく、
実習での経験の意味を考えられる力につながっていきます。



つなげる ～知と技、体験と学び・気づき、人と人、地域と“わたし”をつなげる～

本校の教育で大切にしているキーワードは『つなげる』です。科目と科目をつなげる、確かな「知」と「技」を実践力につなげる、学生の体験を学びや気づきにつなげる、人と人をつなげる、そして病院（施設）から地域、在宅につなげていくことです。具体的には日常生活行動の視点から、からだのしくみを理解し看護に『つなげる』ように科目が構成されています。例えば、3年次には科目：地域密着健康教育で地域と具体的につながっていきます。

看護につなげる形態機能学

従来の医師による病気のメカニズム中心の授業形態から、日常生活行動の視点から、からだのしくみを理解する形態機能学を導入。そしてそれらを看護実践につなげる知識となるよう「看護につなげる形態機能学」を導入し、「看護技術論」に発展していくよう構成しています。



地域密着健康教育

「地域包括ケアシステム」の構築を視野に入れた科目の一つです。地域の事業所が運営する健康や生活を支える企画に1年間を通して活動します。地域と『つなげる』ために、一歩踏み出すアクション力、調整力、交渉力が必要となり、学生の大きな成長を支えています。

つなげ発展する時間

実習での学びを更に豊かにしていくためには、実習前・実習中・実習後の学習準備・振り返りが大切と考えています。そこで本校では、実習時間以外に自分自身で学習準備・振り返りができるよう実習前・実習中・実習後に授業日程を入れず自己学習できる自由な時間が取れるよう授業日程を工夫しています。

<「つなげ発展する時間」参考例>

つなげ 発展する 時間		つなげ 発展する 時間						つなげ 発展する 時間						
実習前		実習 1 日目	実習 2 日目	実習 3 日目	実習 4 日目	実習 5 日目	実習 6 日目	学内日	実習 7 日目	実習 8 日目	実習 9 日目	実習 10 日目	実習後	学内最終日

